

第2期秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）に対する意見一覧（パブリックコメント）

【意見提出数：11 意見数：14】

NO.	意見内容	市の考え等
1	<p>【P16 若い世代の希望の実現】 私の息子も働いていますが、結婚は考えていないので、その考えは、少し改めてほしいので、参考になります。 娘は結婚して5年になりますが、子供はいません。これも時代の流れでしょうか…。秋田は生活しやすい県だと思っています。詳しい資料をいつもありがとうございます。</p>	<p>若い世代の結婚や出産、子育てに対する意識や価値観については、多様化しているものと認識しております。個々人の考えを尊重するとともに、結婚、出産、子育てを望む方々が、希望する時期に実現できるような社会づくりが必要と考えており、引き続き本市施策を推進してまいります。</p>
2	<p>【P7 新型コロナウイルス感染症による影響】 総合戦略（原案）にある「新型コロナウイルス感染症による影響」は、今後の市政に大きく影響を与えることは間違いないと思料する。 コロナ禍の「新しい生活様式」のもとで基本目標を達成していくにはコロナの終結であるが、変異株も出現してきており、先行きが見通せない状況にある。 そうした中で、人の往来や雇用環境、高齢者の住環境を今の水準をベースとして考えた場合、人口の社会減・自然減は想定した数字より減少していくのではないかと危惧しているところである。 原点回帰の意味で農山村地域にも着目し、関係人口の創出等も含め、活性化を図っていくことも必要と考える。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市政の様々な分野に影響が生じており、今後の人口動態を含め、先行きを見通すことが非常に難しい状況にあるものと認識しております。 一方で、地方で生きることの価値や意義が見直され、地方移住の流れが加速していることから、そうした機会を好機と捉え、本市への移住・定住施策を強化してまいりたいと考えており、農山村地域における地域資源の活用も踏まえながら、関係人口の創出・拡大等を図ってまいりたいと考えております。</p>
3	<p>【P12 図表6について】 ①感染症がつづいておりますが密になってる都会から大企業、国の行政機関の一部でも秋田県にもって来たら。 ②若い世代（高校生くらいからも）意見を出してもらおう。大人達に無い感性で面白い意見が聞かれるのでは。 ③高齢者向けの求人案内みたいなのがあったらいいなと思う。（多少の収入を得、またぼけ防止の為働きたいと思ってる人が多いのでは）</p>	<p>①本市では、電子デバイス関連等の製造業や、若い世代の活躍が期待されるICT関連産業等を主なターゲットにしながら、県と連携し、積極的な誘致活動を展開しております。今後も、首都圏等企業における感染防止等のリスク対策や、テレワーク、ワーケーション等の新しい働き方に対応した地方分散化のニーズを踏まえ、本市独自の優遇制度の拡充を図るとともに、教育や子育てなど良好な立地環境のPRに努め、新規企業の立地に努めてまいります。 また、政府関係機関の地方移転については、東京一極集中是正の観点から検討が進められておりますが、国や県の動向等を注視しながら、生活の基盤となる魅力的で安定した仕事の場づくりを進めるとともに、移住・定住施策等を展開し、市政の最重要課題である人口減少対策に粘り強く取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>②総合計画等の基礎資料とするため、昨年度実施した市民意識調査は、高校生を含む15歳以上を対象としており、また、これまでも本市の様々な取組・事業の中で、若い世代がワークショップ等へ参加するなど、一定程度意見を聴取する機会が設けられているものと捉えております。引き続き、若者ならではの新鮮な意見等を汲み上げることができるよう、若い世代との意見交換の場づくりに意を用いてまいります。</p> <p>③働く意欲のある高齢者が年齢に関わりなくその能力や経験、技能を活かし就業する機会を確保するため、秋田市シルバー人材センターの事業運営を支援しているところであり、こうした取組などにより高齢者の働く場の情報を提供し、高齢者の生きがいづくりと社会参加を促進してまいります。</p>
4	<p>【P8 P29 他全体的に】 若い世代にとって、安心して暮らせる見通しが欲しい。意見、希望、ちょっとした困りごとでも、気軽に受け付けてくれるところを作る。あるとするなら、徹底周知する。</p>	<p>昨年度実施した市民意識調査における「本市に住み続けるために必要なこと」との質問項目において、「若者にとって魅力のあるまちづくり」の割合が前回調査から増加しており、こうした結果を庁内で共有しながら、計画等の策定を進めております。人口減少・少子高齢化が進行する本市にあつては、子育ての希望をかなえられる環境づくりや、魅力的で安定したしごとの場づくりに加え、若い世代を惹き付ける魅力的なまちづくりが肝要であると捉えており、本市の将来を担う若い世代が安心して暮らすことができるまちの実現へ向けた取組を進めてまいります。</p>

5	<p>【コンパクトシティについて】 人が集まり、経済が活性化するのではなく、☆生産、加工、販売、消費、☆出生、保育、教育、就業、結婚、出産、老後☆医療、福祉、生活にかかわるすべて これらのことが、地域(秋田市内)でなるべく高割合で行われ、自然災害や不慮の事態(コロナなど)があっても、基本的な生活が継続可能であることが、若い世代はもちろん全世代に共通する安心につながると思う。</p>	<p>市民一人ひとりが健康で心豊かにいきいきと暮らすことができるよう、若い世代が子どもを産み育てやすい環境づくりや、その生活の基盤となる魅力的で安定した仕事の場づくり、地域資源を活用した人を惹き付けるまちづくりに加え、福祉をはじめとする、あらゆる世代の安全安心な暮らしを守る取組など、まちとしての総合力を高める施策を展開し、持続可能な魅力ある地域づくりを進めてまいります。</p>
6	<p>秋田市は車社会で、公共交通が充実していないので、駅前、山王集中は合っていないと思う。 ☆車中心であれば、土地を広く活用できる郊外に、施設、職場をもっていく。 ☆逆に、今まで通りの集中を活性化させるのなら、◎バス、市民特典100円◎市電◎駐車場無料などの今までにない思い切った方法を考えないと…。</p>	<p>公共交通利用者の利便性向上やバス事業者等による効果的な運行の実現に向け、令和3年度中に交通系ICカードの運用開始を予定しており、また、令和3年3月に策定した第3次秋田市総合交通戦略および第3次秋田市公共交通政策ビジョンに基づき、「誰もが自由に移動できる将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現」に向け、関係者の連携により、取組を進めてまいります。</p>
7	<p>個人として(現役世代後盤)秋田に住んで良かったと思う。大きな自然災害は少なく、物価は安い方だし、産地の食料が充実しているので、いいところだなと実感しています。(東京、埼玉、函館滞在経験あり)</p>	<p>本市は、自然災害が比較的少ないことに加え、通勤・通学や山・川・海などへの行楽等に要する時間や距離にストレスを感じる事が少ないことなどから、豊かな自然と都市の利便性が調和した「ちょうどいいから、住みやすい。」をキーワードに、移住・定住施策やシティプロモーションを展開しております。引き続き、交流人口の拡大や関係人口の創出に努めるとともに、市民一人ひとりが心豊かに暮らすことができるよう、魅力あるまちづくりをさらに進めてまいります。</p>
8	<p>【P18 (2)現状と課題】 小規模事業者の廃業の増加が懸念されるとあるが、新規事業の支援とあわせて、廃業させないための、第三者とのマッチングは大事と考える。また、起業家や後継者の育成を念頭に置いた高校生や大学生を対象とした、継続した講座などの開講はどうだろうか。</p>	<p>本市では令和2年度から「事業承継支援補助金」を新設し、従業員承継や第三者承継に必要な経費の一部を補助しているほか、各事業承継支援機関で組織する「連絡会議」を設置し、事業承継に取り組む事業者の支援に向けた意見や情報の交換等を行っております。 また、インキュベーション施設「チャレンジオフィスあきた」を設置し、新規創業や新分野進出などを支援しているほか、同施設を拠点として、「ビジネススタートアップ支援事業」により、学生等の若年層向けの創業セミナー等を開催しております。 さらに、創業や起業、開店・開業に必要な経費の一部補助も行っており、引き続きこういった事業を一体的に展開することにより、創業支援体制の一層の充実を図ってまいります。</p>
9	<p>【P21 (3)講ずべき施策に関する基本的方向】 交流人口の拡大や都市としてのイメージアップと活性化のため、あきた芸術劇場の活用には期待している。</p>	<p>あきた芸術劇場は、市文化会館と秋田県民会館の機能を集約した施設であり、芸術文化活動の新たな拠点として県民・市民の皆様幅広く活用いただける施設を目指し、県と市が共同で整備を進めております。芸術文化を通じた交流の場をつくることで、都市の魅力向上とにぎわいの創出につながるよう、本施設の整備・管理運営に取り組んでまいります。</p>
10	<p>【基本目標について】 ①引き続き若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるを重点的に推進することとし目標としている点で子育て環境はこれまでの施策でどの様に良くなっているのかこれからさらに手厚い支援が得られ希望に沿うものになるか示さなければならない。 若い人の意識調査の中に娯楽、遊ぶ場が無いという意見があります。これは子育てにもいえることではないでしょうか。 ②結婚・出産するうえで安定した仕事、収入、住環境が必要でしょうから、それぞれの目標も重きを置いて取組んでいただきたいと思います。</p>	<p>本市ではこれまで、年度当初における待機児童ゼロを平成23年度から継続して達成するとともに、国の無償化に先駆けた保育料の無償化を実施し、また、秋田市版ネウボラや子ども家庭総合支援拠点の整備を行い、相談体制の強化を図るなど子育て環境の充実に取り組んでまいりました。今後も子育て家庭のニーズを捉えながら、子育てに対する支援の充実により一層取り組んでまいります。 また、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるためには、その生活の基盤となる魅力的で安定した仕事の場をつくる事が肝要であり、本市の将来を担う若者にとって魅力ある持続可能な社会の実現を目指してまいりたいと考えております。こうした子育て・雇用などの施策を核としながら、その他の分野の各目標についても、しっかりと力を入れて取り組んでまいります。</p>
11	<p>【P22～23 基本目標③ (4)ウ・エについて】 観光客入込数、文化施設観覧者数のR7年のKPI指標数字が低いのがわかりません</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえるため、令和2年上半期の減少率を加味して算出したものですが、同感染症の影響を受けると判断した指標については、令和3年度の推進計画策定時点では、原則として「令和7年度までに令和元年度の水準に回復する」という共通の取扱いとし、社会・経済状況を見極めて適切な時期に改めて指標の見直しを行うこととします。 このため、令和7年度の目標値を令和元年度の現況値と同じとし、「観光客入込数」は7,456,537人、「文化施設の観覧者数」は229,072人とします。</p>